

95 明治11年11月25日 菊池長閑宛

第十三号 明十一 十一月二十五日 (長閑注記)

此度差上る写真二十四枚ハ常に親く交る「グリーン」と云ふ人の  
妻君より進上するものなり別紙ハ父君に宛たる手紙にて其云葉(ついで)

之儘訳したり同人ハ甚た信切にて私をハ自分の子の如に彼是世話し呉るなり「アメリカの母より」の語ハ夫より出来(抹消)たるなるへし且当国の母たる者ハ同く子を可愛かるの意あるへし白山并「フランコニヤ」山ノ景色を一覽せらるゝにハ昨年の夏差上たる遊覽略記を見合せられハ能分る所あるへし写真と思付たるハ父君か其道を楽まるゝ事を私より聞たるからなるへし何にしても信切の仕打故私よりハ早速礼(を述べたカ)□□り父君よりも幸便に礼状を送られハ可然其時ハ私英文に訳してグリーンに渡すへし何か印迄に答礼物を贈らるゝ方可然盛岡より贈へきもの別に考なし盛岡の氣候ハ大概当地に似(たれハカ)(かカ)□□何□日本の草花菓樹の種野菜の種杯贈られハ可然譬へハ日本の石竹杯ハ大想珍重するなり只西洋より渡りたる種をハ除かるへ(しカ)種物ハ嵩に成らず目方もなし桐の箱に入紙包にして送られハ左のみ運賃も懸るまし但種物にハ一々名を記し何月頃蒔と云事□たし併し此ハ私の心付其他何にても日本物なれハよし且急かるゝに及はず今頃送上る故ハ「ミセス、トウマス、グリーン」ハ日本風に新玉の贈物をし度よりなり折角の心願故若此十二月三日の便にて往す共新年頃請取たる如く返書を作られハ如何

尊父君

武夫拜

(長閑注記)

「明治十二年一月十二日達シ日数五十二日メ也

同一月廿日此方第一号ヲ以返事」